



ぴよんちゃん通信

福崎町社会福祉協議会
令和4年度 第1号

見事な桜に迎えられ、入園した子どもたち。しばらくは、泣いて登園することもあるでしょう。日中の長時間、初めてお母さんと離れて過ごし、夜泣きすることもあるでしょう。それでも、新しい環境を子どもながらに受け止め、好きなこと・好きな先生が見つかり少しずつ慣れていくと思います。これまで、沢山のお友だちや大人の中で過ごし、心身ともに成長した子どもたちです。信頼して見守りましょう。親子ともゆっくり新しい環境に慣れていくくださいね。

2月24日、プーチンロシア大統領は、ウクライナへの軍事侵攻を開始しました。私たちはメディアなどを通じて、人々の計り知れない苦難を目の当たりにしています。着の身着のまま避難する何百万もの人々。地下に隠れながら「こわいよ」「死にたくないよ」と涙している子どもたち…。胸が張り裂けるようです。人と人との関係があるのなら、相手にそんなに無茶なことはできないというのが人間の本質です。人の結びつきや付き合いを断ち切ってもかまわないという発想が、暴力による支配につながっていくのではないかと思う。だからこそ、子どもたちには、時間をかけ、人とのかかわりの中で生きることのすばらしさを伝えたいと思います。

——地球村通信より——『非対立』と『平和の三原則』具体的には「話し合うこと、理解し合うこと、歩み寄ること」を、子育ての場をはじめとした身近なことに当てはめると、これまで解決できなかった問題が解決に向かうと思います。(自省を込めて)

1. 話し合う 「話し合う」というのは説得や威嚇ではなく、双方が心から「相手を理解したい」というところが原点だ。(今の停戦会議は、ロシアは攻撃を続け、市民を殺しながら、威嚇しながら、一方的に要求しているから話し合いではない。) 心から相手の気持ちを理解し、寄り添う姿勢が欠かせないのだ。それができているかどうかを判定し指導する存在が必要だ。
 2. 理解し合う 「理解し合う」というのは「自分を理解してもらう」ことより「相手を理解する」ことの方がはるかに大切。この理解は、頭(左脳)で理解するのではなく、心(右脳)で相手の気持ちや感情を共感することだ。心に怒りや対立があったり、「また言うてる!」「そんなことわかる!」という気持ちがあれば、理解も共感もできない。
 3. 歩み寄る 「歩み寄る」というのは数字、金額ではない。心の距離をお互いに近づけ合うことだ。相手の言っていることより相手の言わんとすること、相手の理論よりも相手の気持ちを理解すること。相手の気持ちが理解できれば、数字の交渉や取引ではなく、自然と解決に向かう。
- 1, 2, 3 を子育ての場面に当てはめると、いろいろな問題が解決に向かうと思います。例えば、2歳ころには、砂場の玩具を一人でたくさん持ちたいときがあり、誰かが持っていたいこうとすると、「ダメ!」と、時には叩いたり噛んだりすることもあります。でも、まずは、心からその子の気持ちを理解し、「いっぱい欲しいんだね。」と寄り添います。そして、側にいるお友だちのことを一緒に考えます。「終わったら貸してあげてね。」子どもは遊びを続けながらも、お友だちのことも気にし、「どうぞ!」と、一つ渡そうとします。「ありがとう。」お友だちや大人に言ってもらい、嬉しくなります。こんなことを繰り返し、相手の気持ちが理解できるようになっていくのです。トランポと森のひろばでお待ちしています。

トランポリンと森のひろば (体育館でミニトランポリン・ゲーム・手遊び・絵本を楽しんだ後、スポーツ公園とその周辺で遊びます。祝祭日はなし)

- * 活動日時と場所: 毎週金曜日 10:00~ 第2体育館とスポーツ公園 予約なし
- * 準備: お茶、タオル、親子とも上靴(裸足も可)、子どもさんに応じて着替え
(新型コロナの感染状況により、実施できない可能性もあります。ご了承ください。)